令和２年度
浜田市と島根県立大学の共同研究事業報告書

学生の防災意識向上への取組

災害時、県大生にできること

令和３年３月

島根県立大学 総合政策学部
２年 松田ゼミ

はじめに

東日本大震災の発生から間もなく10年を迎える。

東日本大震災以降も、自然災害により多くの尊い命が失われた。

大規模な災害が発生し、テレビ等でその情報に接するたび、自然の脅威を痛感させられる。

必ずしも、災害への備えについての具体的な行動には結びついていない印象がある。

災害時には、県大生も地域の一員として、さまざまな手助けをしたいと考えている。そのためにも、自分の身は自分で守る必要がある。

県大生が、自分の身を守るための災害への備えができているか、災害時に協力する気持ちがあるかについて調査を行った。

調査の概要

目的　：県大生の災害への備えの現状把握
　　災害発生時の協力の意思があるか

対象　：島根県立大学総合政策学部２年生 231人

方法　：インターネットによるアンケート調査

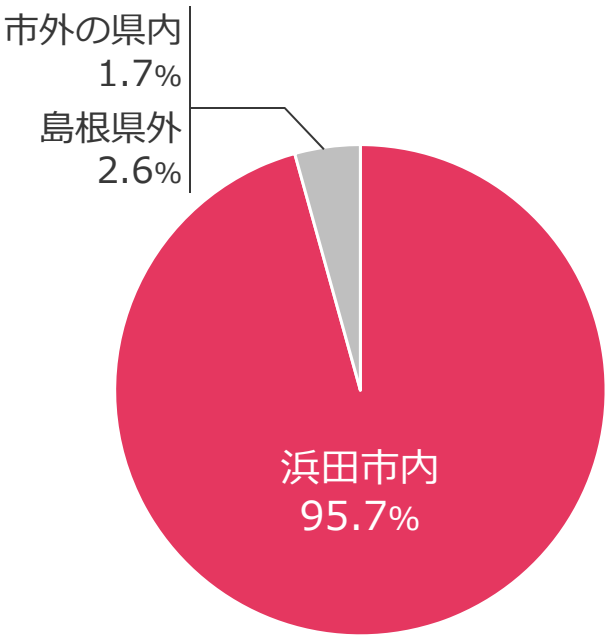
期間　：2020年12月16日~2020年12月30日

回答数：116（回収率：50.2%）

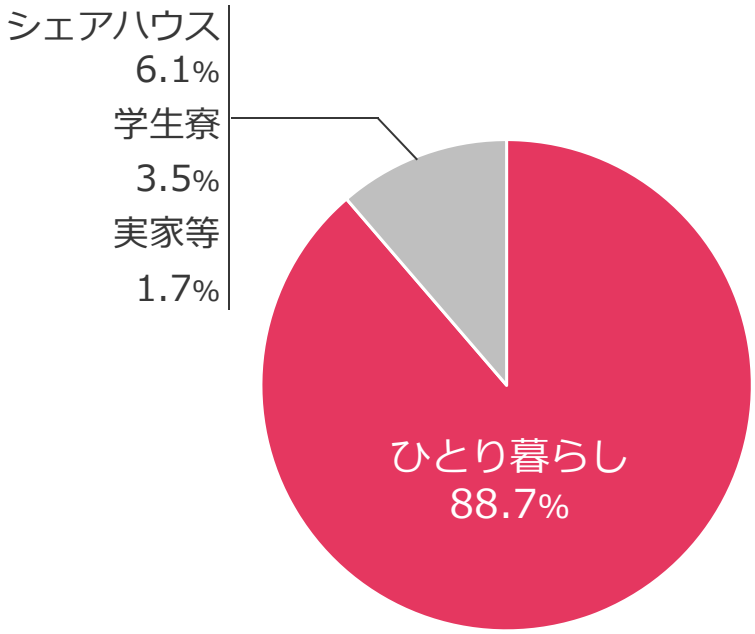
居住地と居住形態

県大生の多くは、浜田市内でひとり暮らしをしている。

災害時には、自分自身の判断で適切な行動をすることが求められる。



居住地



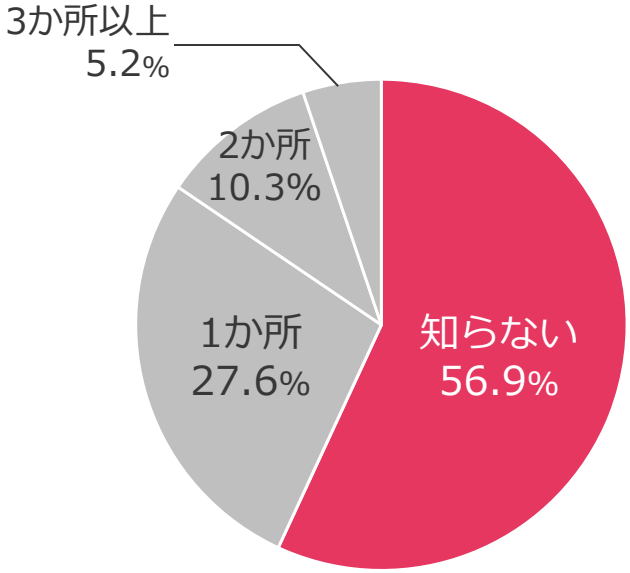
居住形態

災害時の避難場所を何か所知っているか

災害時の避難場所を知らない学生が半数以上もいる。

43.1%の学生は、最低１か所は避難場所を知っているが・・・

どのような災害のときにどの避難場所に逃げればいいかを知っておくことが求められる。



災害時の避難場所を知っているか

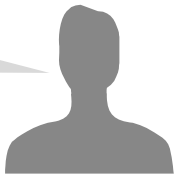
小学校とか中学校って避難所でしょ？

そこが避難場所に指定されてるかどうかわかんないけど、たぶん避難所だろう。

本当に避難場所を把握できている？

県大はきっと避難所だよね？

何かあったら大学に行けばいいんだよね。



避難を開始するのはいつか

災害時のあなたの避難基準としてあてはまるものを選択してください（警戒レベルがどのレベルになったら避難を行いますか？）。

警戒レベル	避難行動等	避難情報等	回答
レベル5	すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報	2.6%
レベル4	速やかに危険な場所から避難先へ避難しましょう。	避難勧告 避難指示（緊急）	40.5%
レベル3	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は危険な場所から避難をしましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	避難準備 高齢者等避難開始	15.5%
レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等	3.4%
レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報	0.9%
レベルに関係なく、そのときの状況をみて判断する			37.1%

避難勧告や避難指示がでたらどうすべきか？

避難勧告や避難指示（警戒レベル４）が発令された場合の行動について、首相官邸のホームページと浜田市のホームページでは、とるべき行動の表現に若干の違いがある。

対象地域で**危険な場所にいる方は**全員速やかに避難してください。

首相官邸ホームページ「避難はいつ、どこに？」

●**対象地区の人は全員**避難する

浜田市ホームページ「5段階の警戒レベルを用いた避難情報の発令について」

自分で判断しなくてよい分、浜田市のように「地区の人は全員避難」が住民にとってはわかりやすい？

避難勧告や避難指示がでたらどうすべきか？

避難勧告や避難指示（警戒レベル４）が発令された場合の行動について、首相官邸のホームページと浜田市のホームページでは、とるべき行動の表現に若干の違いがある。

対象地域で**危険な場所にいる方は**全員速やかに避難してください。

首相官邸ホームページ「避難はいつ、どこに？」

●**対象地区の人は**全員避難する

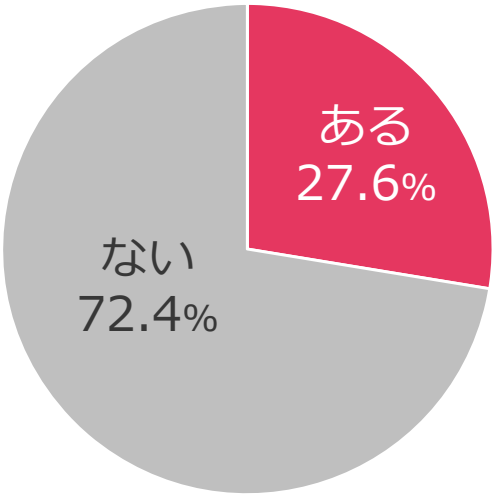
避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する。

浜田市ホームページ「5段階の警戒レベルを用いた避難情報の発令について」

結局、状況をみて判断しなければならない。一人一人が適切な判断をくだせるよう、平時から情報収集を行い、考えておく必要がある。

浜田市のハザードマップを見たことがあるか

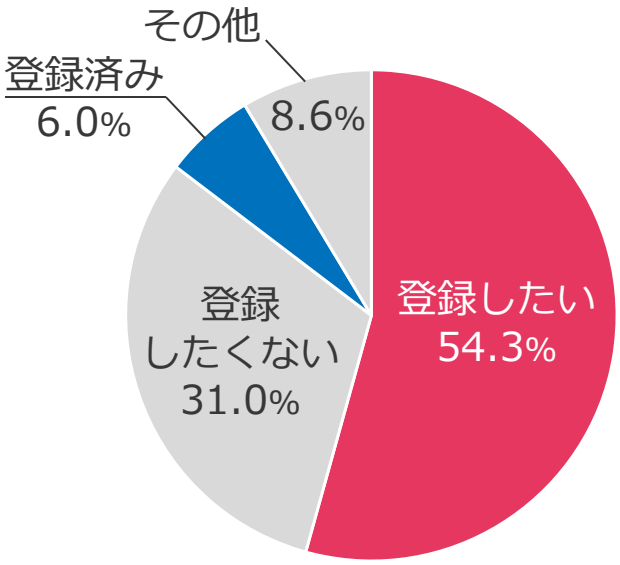
入学後のオリエンテーションでハザードマップを配布しているにもかかわらず、７割もの学生がハザードマップを見たことがないと回答



- 浜田市のハザードマップには浸水の可能性のある地域や土砂災害の発生する可能性のある地域、避難場所の位置などが地図上に表示されている
- 自分の住んでいる地域が、災害時にどのような危険性があるのか、自宅周辺の避難場所がどこにあるのかを平時から確認しておくことが重要

浜田市防災防犯メールの登録状況

すでに登録している学生は全体の6%で、残り**94%は未登録**。
ただし、登録したいと考えている学生は、54.3%はいる。

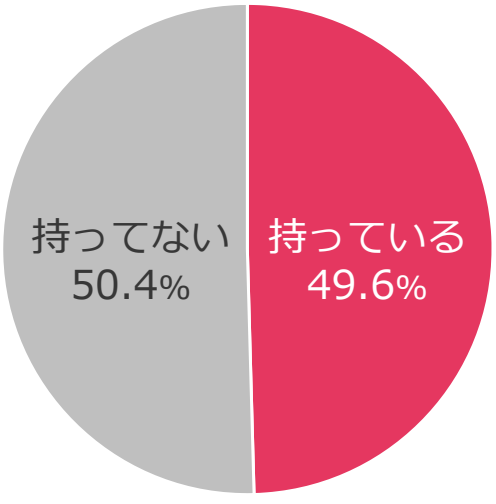


- 登録するのが面倒くさい
- 通知がうっとうしい
- すでに**代替アプリ**（Yahoo天気等）を使っている（必要性を感じない）
- **そもそも電子メールを使用していない**
  友人同士の連絡には LINEを使用
  学内メールはとりあえず件名だけは確認している

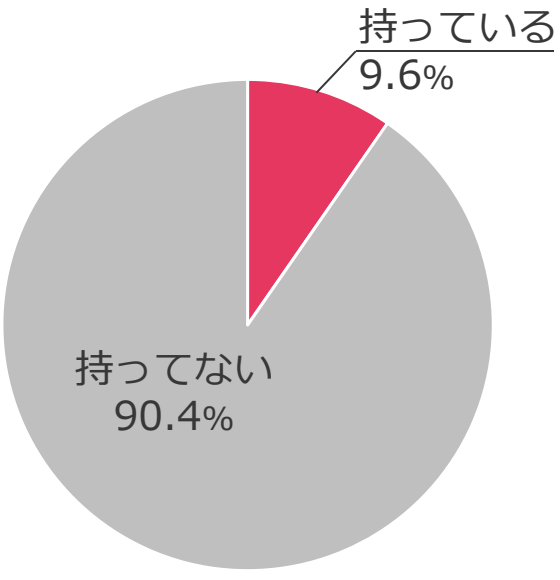
メールよりも、使い勝手の良いアプリがよい

懐中電灯、携帯用ラジオを持っているか

懐中電灯は約半数、携帯用ラジオは１割の学生が持っていると回答。
スマホである程度代替可能だが、念のため用意した方が望ましい。



懐中電灯



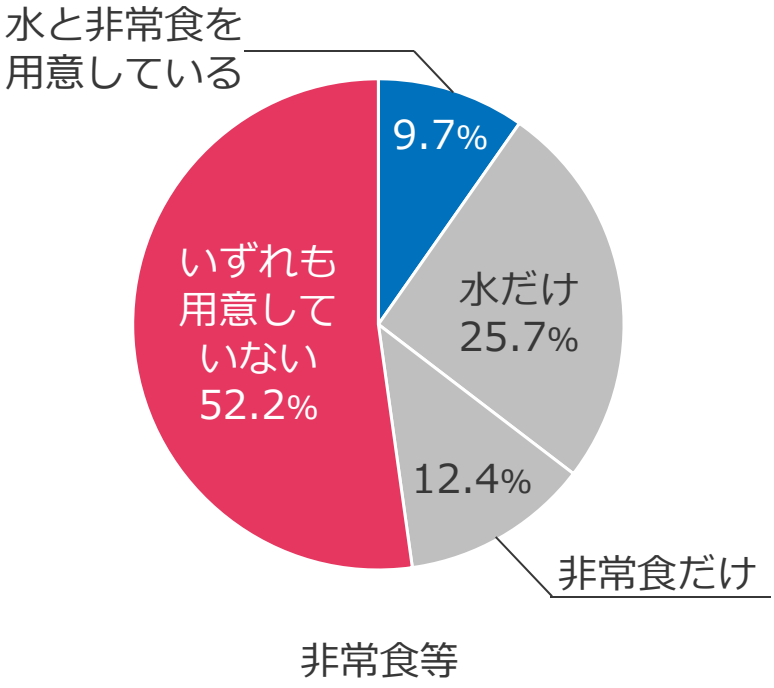
携帯用ラジオ

非常食を用意しているか、常時約何日分の食料が置いてあるか？

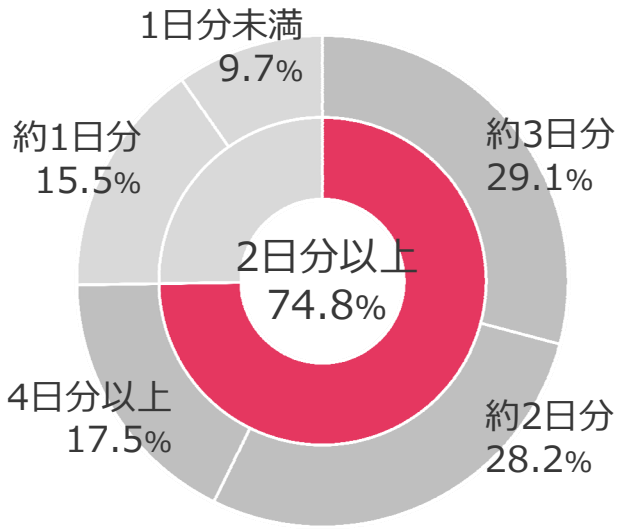
非常食や飲料水を用意している学生は少ない。

2日分以上は常時、何か家に食べるものが置いてある。

→ **ローリングストック**の考え方を知ってもらい実践してもらいたい。



非常食等

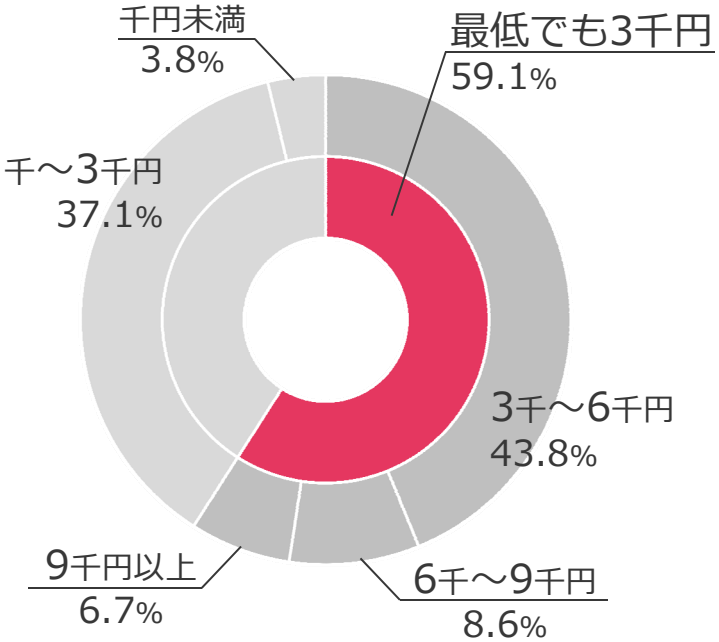


常時何日分の食料が
家に置いてあるか

備蓄品にどれくらいお金をかけられるか

最低でも3,000円が6割弱いる。

→ 3,000円程度で用意しておくべきものを紹介できるとよい。



たとえば
どんなものを用意するとよいか

- 飲料水（2L×6本）約500円
  大人1人につき、1日2～3Lの飲料水が必要
- 手回し充電ラジオ 約2,500円
  手回しでも、太陽光でも発電可能な懐中電灯付きの携帯用ラジオがあれば、スマホの充電も可。

＋

- カップ麺等（4～5個）約500円
  安価で比較的長期間保存可能。食器も不要。
  日ごろ家に置いてある食料を、調理の不要なものに置き換えておくだけでOK

常温の水でカップラーメンは食べられるか

カップラーメン　88円（税抜き）、水2リットル　78円（税抜き）

室温19度、常温の水を入れて、どのくらいで食べられるか検証

結果：常温の水であれば、25分程度で問題なく食べられる！

20分経過

25分経過

手回し充電でスマホを充電してみた

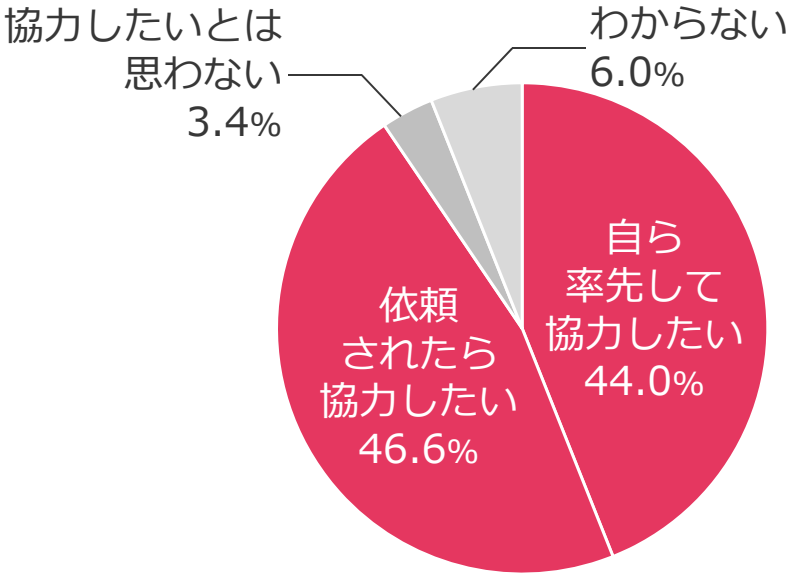
手回し充電、ソーラー充電が可能で、乾電池でも使用できる

懐中電灯付きの防災ラジオを使って、手回しでスマホを充電してみた

3分間の手回し充電で、84% → 88%まで充電ができた

災害時に率先して協力する気持ちはあるか

９割の学生が災害時に避難所の運営や救援活動など、何らかの協力をしたいと考えている。



災害時に率先して協力する気持ちはあるか

- 友人に誘われたり、周囲の人から依頼されたら協力したいと考える学生が最も多い
- 県大生の多くがこのような気持ちを持っているということを周囲の人にも知ってもらい、人手が必要なときには、遠慮せず、**積極的に声をかけてもらえると、学生も協力しやすいのではないか**

まとめ

県大生の多くは、浜田市でひとり暮らしをしている

→ 災害時には、自分自身で適切な判断をしなければならない

避難すべきかどうかを判断するのは簡単ではない

→ 避難勧告・指示が発令された時点で避難を開始？
→ 自分が安全な場所にいるか、近くの安全な場所はどこか？
→ 日ごろから学生に考えてもらうためにはどうすればよいか？

県大生の備蓄品の準備状況は十分とは言えない

→ お金をあまりかけず、最低限備えておくべきものについて知ってもらう機会を作りたい
→ 可能であれば、各自で考えてもらう機会があるとよい
→ ローリングストックの考え方についても知ってもらいたい

ほとんどの県大生は災害時に何かしたいと考えている

→ マンパワーが必要なときに、**学生が協力しやすい仕組みづくり**

おわりに

この数年の間にも、甚大な被害を引き起こした災害がいくつも発生している。にもかかわらず、私たちゼミ生自身、これまであまり災害について考え、備えることがなかった。

東日本大震災から10年を迎えるこの機会に、改めて災害について多くの学生に考えてもらいたい。

９割もの学生が災害時に何か貢献したいと考えていることは、とても素晴らしいことだと思う。ただし、個人個人でできることには限りがあり、**十分な知識や装備がないまま動いてしまうと、自分自身が危険**にさらされる可能性がある。

すでにある**地域の自主防災組織に参加したり**、あるいは**学生で自主防災組織を作りそこに参加してもらうなど、災害時に学生が安全に活動できる方法などを今後考えていきたい。**

島根県立大学 総合政策学部 ２年 松田ゼミ
松木 琉生、永原 孝樹、黒川 心貴、齋藤 幸也
有富 智哉、小林　陸、平井 聖雅、大坪 将己